

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	13-104	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）		
<p>The association between hospitalization for asthma in childhood and alcohol use disorder hospitalization during adolescence and early adulthood among males in an Australian birth cohort.</p> <p>オーストラリアのバースコホートにおける男性の青少年期のアルコールによる入院と小児期の喘息の入院歴の関係について</p>		
執筆者		
Liang W, Chikritzhs T		
掲載誌		
J Asthma. 2013 Nov;50(9):996-1001. doi: 10.3109/02770903.2013.829090.		
キーワード		PMID
喘息、アルコール、入院、コホート研究、オーストラリア		23889369
要 旨		
<p>目的： 喘息と精神疾患の関連については多くの横断研究で報告されている。本研究の目的は、子供の頃の喘息による入院が、青少年期におけるアルコールによる入院のリスクを増加させるかを調査することである。</p> <p>方法： 1980-1984年に西オーストラリア州で生まれた男性56,369名の住民ベースの出生コホートを用いた。喘息の入院歴は3歳未満、3歳以上6歳未満、6歳以上12歳未満、12歳以上19歳未満、19歳以上の期間に分けて検討した。喘息とアルコールによる入院はICD-9、ICD-10のコードにより同定した。解析には生存分析、ポアソン回帰モデルを用いた。</p> <p>結果： 3-6歳、12-19歳に喘息で入院したものは、その後のアルコールによる入院リスクが有意に高かった。</p> <p>結論： 西オーストラリア州の男性出生コホート研究では、子供の頃に喘息による入院歴のあるものは、その後のアルコールによる入院リスクが高いことが示された。</p>		